

自己卵子を用いた ART で生産にいたった超高齢妊娠例の検討

井上朋子、高矢千夏、岩端秀之、姫野隆雄、伊藤啓二郎、中岡義晴、森本義晴
IVF なんばクリニック

【概要】当院開院以来 11 年間に ART 治療後生産にいたった症例中 46 歳以上の者は 4 名だった。それぞれの妊娠に至った治療内容と超高齢女性の不妊治療の方針について考察する。

【症例 1】不妊期間 3 年、妻 42 歳・夫 34 歳で初診。クロミフェンまたはレトロゾールを主とした低刺激法で採卵を 4 周期実施。その後ホルモン補充凍結胚移植で妊娠。43 歳 8 カ月時に第一子を妊娠 39 週で正常分娩、その後の凍結胚移植でも妊娠 39 週にて第二子を正常分娩（46 歳 10 カ月）した。

【症例 2】不妊期間 12 年、妻 46 歳・夫 40 歳で初診。クロミフェンを主とした低刺激法で採卵を 4 周期実施。その後のホルモン補充凍結胚移植で妊娠。妊娠 39 週正常分娩（47 歳 7 カ月）にいたった。

【症例 3】不妊期間 5 年、妻 44 歳・夫 40 歳で初診。クロミフェンまたはシクロフェニルを主とした低刺激法、エストロゲン補充下の自然周期で採卵を計 19 回実施。4 回目の凍結胚移植（46 歳採卵時の凍結胚使用）で妊娠。47 歳 7 カ月時に妊娠 37 週帝切分娩にいたった。

【症例 4】不妊期間 12 年、妻 42 歳、夫 42 歳で初診。調節卵巣刺激 5 回、低刺激または自然周期採卵 3 回実施。新鮮胚移植 3 回、凍結胚移植 7 回実施。45 歳時に凍結した胚をホルモン補充凍結胚移植した結果妊娠成立。50 歳 7 カ月時に妊娠 33 週帝切分娩にいたった。

【考察】妻の年齢が 46 歳以上であっても生産にいたるものが少数あったが、胚移植あたりの生産率はわずか 1.7%だった。昨今の胚凍結技術の進歩により超高齢で妊娠する可能性があるが、母体や新生児の周産期リスクを考慮すると、凍結胚移植の時期を遅らすべきではない。症例 4 を経験した後、当院では不妊治療の年齢制限を導入することにした。